# 教師の「自己評価目録」について（Ⅱ）
## －生徒理解についての教師の行動目録試案－

川崎市教育研究所　丸　山　義　王

### 1.　教師の自己評価の意義

人は自分の個性という枠の中で人を見る。個性という眼鏡をかけて外を見ているのである。その枠が物ごとを判断する基準となるので，それからはずれるものは見えないのである。教師が自分のこうした見えない部分について無知であるならば，気がつかないうちに生徒との関係をこわしたり，生徒の気持を傷けたりしてしまうのである。

教師の「おそいなぁ」の一言が，その生徒に対するいじめを誘発することがあるといわれるが，この場合，教師は学習速度の遅い生徒の気持をくむことができないのである。ことばは単なることばでなく教師の気持と結びついている。一般に人は自分にとって受け入れ難いことは無意識に見逃したり歪曲したりし易いのである。自分の気持の傾きについては，ほとんど無自覚なのである。教師はこうした自己の暗部を知ることにより，はじめて生徒を正しく理解できる。

それゆえに望ましい生徒指導のあり方を考えていく上で，教師自身の自己理解を深めることは特に重要なのである。教師は「一人よがり」に陥らないように，常に自己理解に励まなくてはならない。

教師は，生徒理解とよくいうが逆に生徒の側からいえば教師理解の側面もある。教師には「自分も見られているという認識は概して弱い。生徒理解がより深まるためには，教師もまた生徒に見られているという相対的な理解が必要である。教師と生徒の間には，このように「見る，見られる」という相互作用が存在する。その相互作用についての認識が重要なのである。このような見地からすると教師が自らを知ることが困難であるところに問題がある。即ち自らをうつす「鏡」がないので自己評価ができないのである。その鏡の役割を「教師の自己評価目録」は果たしうるのである。

日本では，教師の力量形成（注1），教師のリーダーシップ（注2）については注目すべき研究があるが教師の人格面を含む教師の態度評価についての研究は十分になされていないように思われる。そこで，筆者は第10巻（注3）において，全米理科教師協会が作成した「我々の学校における理科の生徒と教師と教師との相互作用」についての目録を紹介した。この目録は，先生と生徒との相互作用を軸として構成され，項目をチェックすることにより，生徒とかかわる場合の教師の望ましい態度について自己診断ができるようになっている。しかしこの目録は理科教師のための目録であり，国状の違いもあって，日本の学校の現実には，必ずしも適合しない部分がある。そこで，この目録の考え方を参考にしな

がら，予備調査を行ない，その資料をもとに，日本の学校においても使用できる「教師の態度」についての「自己評価目録」を一試案としてではあるが作成してみたのである。

## 2. 教師の自己評価目録の作成（注４）

(1) 作成のねらい

この目録の役割は，教師がこれを見て，自分の態度において，あるいは，生徒との接し方について，「ああ，こういうこともあるのだな」という気づきについての効果にある。この目録を見ることによって「なるほどそうか」と思い工夫をする。そこがこの目録のねらいである。

教師は「カウンセリング・マインド」を持たなくてはならないとよく言われるようになった。これは従来から教師の価値を授業者として，学級集団の統卒者（ headship ）としての側面に重きを置きすぎていたことへの反省であるように思われる。授業の技術に優れていても生徒との心の交流を欠くならばその効果は発揮し得ない。まずは教師のカウンセラー的役割があって，それに良い授業者としての役割が加わることが最も望ましい。

この目録には，そのようなカウンセラー的な役割の諸要素があげられており，教師が項目をチェックすることによりその役割をも発見できる。これもこの目録の大きなねらいである。

(2) 作成の手順

この目録はパート１と２によって構成されている。まずパート１は，中学２年生の１クラスずつ３校の生徒約120人に実施した予備調査をもとに作成した。予備調査の質問は，「あなたにとって望ましい先生とはどのような先生ですか，自由に書いてください。」という自由記述の形式をとった。パート１は，「教師態度についての目録」であり教師の態度を生徒の目から見たものである。

パート２は，中学校男女教員約120名に実施した予備調査をもとに作成した。この予備調査の質問は「生徒を理解するにあたって，特に気をつけておられることを記入してください」という自由記述の形式をとった。パート２は「生徒理解についての教師の行動目録」であり，教師の生徒への接し方について教師自身の目から見たものである。

項目を作成する際，苦心した事項が三つある。その第一は，教師や生徒によって書かれた文章のニューアンスをいかに生かすかと意を用いたことである。この予備調査の形式が自由記述なので，どちらでもとれる言い方，一つのことをいろいろな言い方をしているために，項目の内容を記述することにおいて苦心をした。平易で具体的な内容の項目と，一般的な言い方をした抽象的な内容の項目とが，結局は混合するようになってしまったが，語尾を統一して同じ調子を持つ文章になるように工夫した。

教師の自己評価の基準となる項目を作る上での第二の困難点は，作用因になる諸条件が非常に多く，それが重なり合うことである。アメリカで研究された「教師の自己評価目録」（注５）の項目数は，100から1,000項目程度までとその項目数が非常に多い。しかしそのような多くの項目を教師がいちいちチェックすることは，実際上むずかしいことである。そこで前回の研究「教師の自己評価目録に

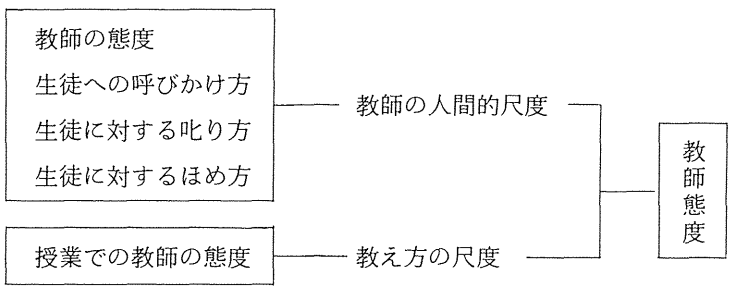
ついて」で紹介したＮＳＴＡ（全米理科教師協会）の目録が，パートＡ，Ｂ各40項目，計80項目で構成されているので，それを目安として項目数を選定した。ここではパート１を52項目パート２を46項目，計98項目とした。非常に多数の要素をどの範囲で選定すればよいかに意を用いた。

第三の問題は，項目のまとめ方であった。予備調査での一人一人の回答結果から，一般的な法則を導くことはむずかしいので，演繹的に項目をまとめる方向をとった。抽象的な記述であるよりも，場面が，例え特殊であっても，より具体的な記述であることの方が，活用できる可能性が高いと思われるので，なるべく項目の内容を細かくするようにした。そのためにとり入れることのできない項目がでても，やむをえないこととし，取捨して項目を選定した。そして全体的な内容構成上についてのまとまりが，得られるように工夫をした。

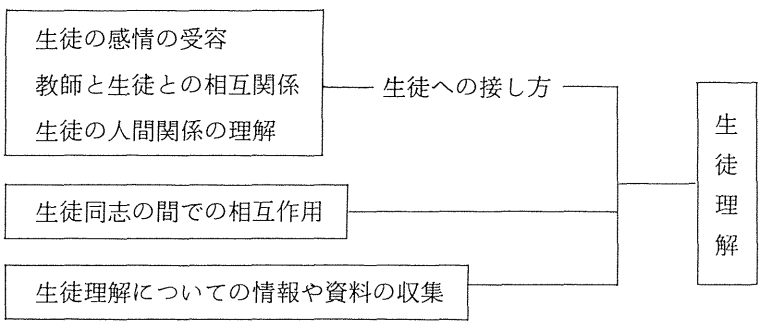
(3) 目録の内容構成

目録の構成については「生徒指導」についての「児童理解の方法」（注６）の枠組などを参考にしながら以下のようにまとめた。

パート１；「教師態度についての目録」




パート２；「生徒理解についての目録」




以上項目の内容は生徒理解の具体的な面に焦点をあててある。実際にどういう場面でどういう行動をするかということは教師の経験の中に埋れて他に伝わりにくい。その意味で本目録は教師の経験の集大成といえる。

(4) 目録の評価の方法

この目録は自己評価目録であるので，教師自身が自己を評価するという形をとる。また尺度は，3段階とし，達成度評価とする。

例 「パート1」の1)の項目

1，2，3段階の中で自分にあてはまるのに○印を付す。

1. 明るいほがらかな表情　　1　2　③

1…あてはまらない

2…どちらともいえない

3…あてはまる

例 「パート2」の1)の項目

1，2，3の段階の中で自分にあてはまるのに○印を付す。

1. 生徒があることを上手になしとげた場合自発的に真心をこめてほめる。　　1　2　③

1. あまり心がけていない

2. 普通にやっている

3. いつも心がけている

以上のように各項目ごとに評価し，それら全体のプロフィルを出して自分の行動の傾向を知るようにする。

## 3. 教師の「生徒理解についての行動目録」

(1) 教師態度についての目録

このパート1で評価の目的としていることを以下若干述べたいと思う。

教師と生徒とは見る，見られるの関係にあるが，教師はだまっている時においても生徒たちに，心理的な影響を与えている。いわば，教師の黙している時は「能」における「間」に相当する。次の動きの準備期間であり，生徒は期待して待っている。この時の教師の態度・表情が大切なのである。行動様式の模倣による習得をモデリングというが生徒が教師の行動をまねてよく似た行動を現わすことがよくある。言外の表現様式においてこそ，情動的なもの，相手に対する態度かかわり方などが伝達されるのである。

教師は生徒たちに，体で，立居振舞により自然に語りかけている。

顔の表情，視線，声，服装，髪型，食事のマナー，一般の空間行動等数えあげるときりがないがこれらが積み重なって，生徒たちは教師のイメージを形づくっていく。

ここでとりあげようとしているのは，まず第一に「教師と生徒との間の非言語的相互作用」である。第2にとりあげているのは，教師の子どもに接する場合の望ましいあり方である。

教師の性格は「指導態度」や「授業態度」に現われる。教師自身が自分を受け入れ，人生を肯定

的に見ている場合と，自己嫌悪を抱いている場合とでは，周りに与える影響は，著しく差があるであろう。例えば教師が，自己に肯定的であれば，他者に対しても受容的な態度で接することができる。それは生徒に対し，「親しみやすく，きさく」「親切」というような印象を与えるであろうし，叱り方やほめ方，生徒との対話，授業中の発言等も余裕のある暖か味のあるものとなり，生徒との相互作用を良好にするものである。

以下パート１の目録の全体を示し後に補足的な説明を加えたいと考える。

## 生徒理解についての行動目録〔１〕

――教師の態度について――

各項目ごとに 1, 2, 3 の段階の中であてはまるのに○印をつけてください。

| | あてはまらない 1 | どちらともいえない 2 | あてはまる 3 |
|---|---|---|---|
| 1. 教師の態度 | | | |
| 1）明るいほがらかな表情 | | | |
| 2）ユーモアにとむゆかいな表情 | | | |
| 3）やさしいまなざし | | | |
| 4）暖かいまなざし | | | |
| 5）声が大きくよくききとれる | | | |
| 6）発音がよく声がはっきりしている | | | |
| 7）上品で清潔な服装 | | | |
| 8）スマートな服装 | | | |
| 9）親しみやすくきさく | | | |
| 10）きびきびしている | | | |
| 11）親切である | | | |
| 12）健康で休まない | | | |
| 2. 教師の生徒への呼びかけ方 | | | |
| 1）先生の方から声をかけあいさつする | | | |
| 2）廊下や道で会った時，生徒によく声をかける | | | |
| 3）必ず名前を呼んで声をかける | | | |
| 4）始業時の出席確認には名前を呼び顔をみる | | | |
| 3. 生徒に対しての叱り方 | | | |
| 1）生徒の気持を考えてしかり，態度はきびしくても後味が悪くならないような叱り方をする | | | |
| 2）誤解による叱ることはない | | | |
| 3）一方的なきつい叱り方はしない | | | |
| 4）理由のない叱り方をしない | | | |

↑ 教師の人間的尺度（カウンセラー的教師）

1　2　3

5）叱る前に言い分を聞く
6）自尊心を傷つけるような叱り方はしない
7）弱点を指摘したり皮肉をこめた叱り方はしない
8）他の生徒と比較するような叱り方はしない
9）叱り方がからりとしている
10）体罰を加えた叱り方はしない
11）「悪口」をともなった叱り方はしない
12）皆の前で恥をかかせるような叱り方はしない

4. 生徒に対してのほめ方

1）「そうそうそれはいい」などとアイデアをほめる
2）「じょうずね」などと行動についてほめる
3）「そう感じるのはよい」などと感じ方についてほめる
4）生徒のよい発言や態度についてすぐほめる
5）生徒の発言をいつもよくきいてあげる
6）一人の生徒の発言が他の生徒にもわかるように誘導する
7）先生の気持を生徒に伝える場合のことば使いやふんいきづくりを工夫している
8）生徒のものの考え方については個人差が大きいので一人一人に応じた話しかけほめ方を工夫している

5. 生徒に対する受容的な接し方

1）生徒の話題に強い興味を示す
2）生徒の立場や気持になって聞く
3）生徒が話やすいように合づちをうつ
4）生徒が話出そうとするきっかけを与える

6. 授業での教師の態度

1）先生はベルと共に教室に行きベルと共に授業を終らせる
2）遅刻をしてもいきなりおこらず生徒のいい分をよく聞く
3）えこひいきせずに生徒を公平に扱う
4）指名の仕方がうまくまんべんなくあてる

教師の人間的尺度（カウンセラー的教師）

↑教師の教え方の尺度

5）黒板の字がきれい　1　2　3
6）教え方がわかりやすい
7）面白い話をして授業をもりあげる
8）生徒のわからない所を後で教える
9）生徒は先生に質問がしやすい
10）先生は部活動に熱心である
11）きまりについてはいつもきちんと守らせる
12）清掃や給食の時はいつも先生が指導している

↑教師の教え方の尺度↓

パート〔1〕の目録の使い方であるが，勿論，教師の態度についての教師自身の自己評価のため使用するのが目的であるが，これを生徒対象にして実施することも有効である。

なぜならば望ましい教師についての生徒の評価は，裏をかえして見るならば，一種の批評になっているので生徒が担任教師の態度や授業の仕方をどう見ているかがわかる。それを集めると，クラスの特性もうかがい知ることができよう。また各項目ごとに検討すればその項目に対する，男女の感じ方の差をも見ることができるであろう。

(2) 生徒理解のあり方についての目録

この目録のねらいは，教師側から見た生徒理解のあり方についての評価である。

これまでは教師の授業者としての側面に重きを置きすぎていた。教師の本質が授業にあるのは確かであろうが，生徒からすると，学習が成り立つためには，まず教師との心の通い合いが必要となる。つまり教師のカウンセラー的な機能が前提となり，それに授業者としての側面が加わるのが理想的なのである。

そこでこのパート2の項目においては，1番目に受容の項目をまとめた。これは教師が生徒の感情に敏感であるかどうかを見るためのものである。

2番目には教師と生徒の相互関係についての項目を集めた。相談的な教師は生徒との関係を大切にしなければならない。生徒への接し方の問題である。

3番目に置いた項目群は人間関係の理解である。教師は観察や，調査等により生徒の人間関係の実状をつかんでいなければならない。単なる現象よりもその背後にあるものを洞察しなければならない。そうすることにより，登校拒否とかいじめのような人間関係の歪みを察知し発生を予防することができる。また4番目の項目群は生徒同志の相互作用。5番目の項目群は生徒理解のための情報収集である。次に目録の全体を示そう。

## 生徒理解についての行動目録〔2〕

── 教師の生徒理解について ──

各項目ごとに1, 2, 3の段階の中で自分にあてはまるのに○印をつけてください。

あまり心がけていない　普通にやっている　いつも心がけている
1　　2　　3

1. 生徒の感情の受容

1）生徒があることを上手になし遂げた場合，自発的に真心をこめてほめてやる。

2）生徒の感情を敏感に察知し，やさしさと理解を示す。（生徒の心や感情を大切にする）

3）子どもが偶然何かをこわした時，必要があれば援助して思いやりを示す。

4）動作ののろい生徒が，手ぎわのよくない仕事をしている時，余裕をもって忍耐強く待つ。

5）生徒の言い分を十分に聞いてやり，気の済むまで話しをさせてやる。

6）生徒の気になる行動を見る時，教師自身の経験（例えば中学生の時代）と照らし合わせて考えてみる。

2. 教師と生徒との相互関係（生徒への接し方）

1）生徒のよさを発見し，伸ばそうとする姿勢で接する。

2）生徒の立場で考え，相互的に理解し合える人間関係をつくる。

3）生徒の行動の背後にある条件や過程を理解し，生徒の独自性を大切にする。
（例えば他と異なる行動や反応を示す生徒がいても，理解し公正に取り扱う）

4）管理面のみに目を向けず，生徒のその時の状態を配慮した上で柔軟に指導する。

5）教師は常に生徒と個人的に話し合う時間をつくる。（放課後，生徒とできるだけ話しをするようにしている）

6）教師は生徒を好きになる。

7）先入感を持たずに接し，好悪の感情をもって生徒をみない。

8）教師は生徒をやりこめるのではなく，建設的な批判をする。

9）生徒と一緒に行動し，考えようとする。

10）教師は自分のありのままの姿で，へだてなく生徒に接し心を開いてつき合う。

11）自己主張の強い生徒には時間をかけて事の理非をわからせようとする。

12）生徒の話しを根気強く聞きはじめから指導しようとあせらないようにする。

13）生徒と個人的に話す場合，指示的，否定的なことばを使わないようにし暖かい態度で接する。

14）場や機会，生徒の性に応じてスキンシップを工夫する。

15）教師と生徒との結びつきが片寄っていないかを感知できる。

16）教師と生徒との信頼と疎遠の関係について感知できる。

17）男子教員は女生徒との女子教員は男生徒との交流と指導とを積極的に工夫する。

18）生徒に時としては断固とした態度を示しまた決して指導をあきらめないという姿勢を示す。

3. 生徒の人間関係の理解

1）教師は生徒の行動をその発生過程の中で理解しようとする。

2）継続的に観察することで，学級集団の時間的変容をたどることができる。

3）学級集団の中での下位グループの存在を観察することができる。

4）学級の中でだれがリーダーかを感知することができる。

5）学級内におけるボスの存在を感知できる。

6）学級の中でだれが疎外されているか，孤立しているかを感知できる。

7）内向的で目立たない生徒に目をむけて指導しようとする。（非社会的な子どもの指導の工夫）

8）生徒の学級集団への所属意識や仲間意識の程度を感知できる。

9）個々の生徒の学級の中での友人関係に安定感を持っているか，いないかを感知できる。

10）生徒が学校生活全体に対して好ましい感情をもっているかどうかを感知できる。

11）家庭環境や生育歴などその生徒の背後にある事情をできるだけ理解する。

12）特殊な家庭環境にある生徒は，片寄ったものの見方，考え方をしていることが多いが，話しをよく聞いてやり，正しく生徒を理解する。

4. 生徒同志の相互作用

1）生徒同志の相互作用を知るように努める。自己中心的でわがままな生徒には友だちや，学級のことを考えるように指導する。

2）生徒の行動は生徒同志の関係によって変わるので，学級の生徒同志の相互作用を大切にする。

3）部活で問題がおきた時には，生徒間の人間関係を考慮して解決にあたる。

5. 生徒理解についての情報や資料の収集

1）登校時，朝の学級活動，授業中などで顔色の悪い者，態度が気になる生徒については留意して指導する。

2）机間巡視の際，ノートのとり方を観察し，生徒の心理状態を推察する。（学習意欲の低下，落書きによる問題の発見）

3）生活ノートの点検を通して生徒の問題を発見し，助言を与える。

4）生活ノートの提出，生徒の自己評価（例えば，班や係の評価，学期末の反省）の定期的な調査，生徒との面接を通して生徒理解を深める。

5）学習ノート，日記，宿題などを通して，生徒の家庭で書いたものを見ることにより，家庭学習にどのように取り組んでいるかを知る。

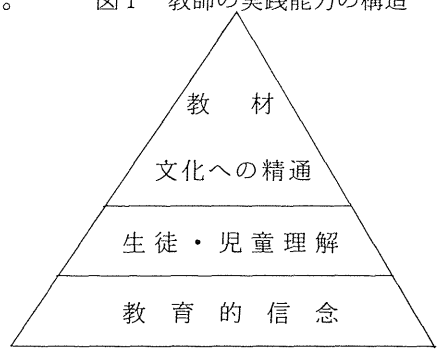
6）生徒の全体的な学力についての情報できるだけくわしくつかむ。

7）生徒の日常観察を通して，その喜びや悩みをとらえ，励ましや助言を与えることにより，生徒との人間関係を良好に保つ。

## 4. 今後の課題

教師にとって実践能力（ competency ） の分野は非常に大切である。昨今よく生徒との信頼関係とか，生徒理解の方法とか言われるが抽象的な段階でとどまって，実践の段階までに降りてこないきらいがある。内容が具体的でないのである。ここでは，この目録により信頼関係とは何か，生徒理解の中味は何であるを追求してみようとしたのである。（注７）

図１　教師の実践能力の構造




生徒理解は教育実践の中核である。右の図のように教育信念の土台の上に児童理解があり，この二つの上に教材文化の精通がある。従来までは，教材文化の研究という教育の技術的側面にウエイトが置かれていた。これからはさらに生徒理解の方に目が向けられねばならない。そのような方向でこの目録の研究を進めたいと思っている。

「先生は，自分を神様ぐらいに思っている。自分の考え方が絶対だと信じているのだからやりきれない。勝手に解釈し，思いこむのだからたまったものでない」とある生徒が手きびしいことをいっていた。

学級は教師と生徒の集団である。相互に相手を正しく認識しなければならない。教師の正確な自己評価が土台となって生徒個人や学級雰囲気の正しい認識ができるのである。教師が自らを正しく見ていないのなら対象の認識はゆがんでしまうのである。

この目録が教師の正しい自己反省に結びつくように，実際に活用してその項目や内容を修正し，充実したものにしていきたいと思ている。

（注１）

◦筑波大学教育学系内教師教育研究会

「教師の力量形成と研修システムの改善に関する実証的研究」文部省科研費一般研究（Ｂ）報告書 1983 年

◦小島弘道「若い教師における力量形成の独自性に関する研究―研修に関する意識調査をとおして―」『筑波大学教育学系論集』第７巻　1983 年

◦千葉県総合教育センター「初期層教員の資質力量形成と現職教育に関する調査研究（Ⅱ）」 同センター研究紀要第 227 集　1985 年

（注２）

西山啓，鈴木理生，山中朋子，大谷哲郎

「教師の指導性に関する研究」日本教育心理学会第24回総会発表論文集Ｐ 667　1982 年

（注３）

丸山義王「教師の自己評価目録について―ＮＳＴＡにおける教師と生徒の相互作用のモジュールを通して―」『学校経営研究』第10巻，大塚学校経営研究会，1985 年

（注４）

ＮＳＴＡの目録においては「module（単位）」という語を使用し，「ミネソタ教師目録」においては「Invertory（目録）」という単語を使っている。また「chek list（チェックリスト）」の，「lsit」には（表，目録）の意味がある。また「catalogue」にも（目録）という意味がある。各語には共通して目録という意味があり，内容は，教師の自己評価についての項目を集めている一覧表であるので，「目録」という語は，日本語としては，十分になじまない面もあるのであるがこれをとりあげた。

（注５）

代表的なもの二点をあげる。

- Minnesota Universty「Minnesota, Teacher Attitude Inventory」1958年
- ＮＳＴＡ「Science Student 1 Teacher Interactions in Our School」1978年

（注６）

- 文部省「児童の理解と指導」小学校生徒指導資料１　Ｐ60～Ｐ88　1982年

（注７）

藤野武「教え上手と児童理解」『児童心理』vol 30，№11，Ｐ69　金子書房，1976年